赤瀬雅子先生のこと

文学部　岡　田　章　子

赤瀬先生，立派な業績を残しお元気で定年をお迎えになりおめでとうございます。赤瀬先生は私が約25年前桃山学院大学に着任する以前から存じ上げていました。当時の私は今よりも熱心に比較文学会に参加していまして，そこでのお知り合いでした。赤瀬先生は永井荷風を中心に研究しておられ，『永井荷風とフランス文学』というご著書を出版されたばかりでした。幅広い知識と綿密なご研究で学会で皆の尊敬を集めておられたのは門外漢の私にもわかりました。ちょうどその頃，金沢で比較文学会全国大会が開催されて私も出かけました。まだ桃山学院大学へ来る前のことでした。地方都市の春のシーズン中の学会なので，宿泊施設を学会が手配して下さいました。その時全く偶然にも赤瀬先生と私ともうひとりの女性と３人が同室になりました。赤瀬先生のことはただ学会での活躍を通してお名前と桃山学院大学の先生であることを存じ上げている程度でしたが，立派な方とご一緒という幸運を喜びました。もうひとりの女性とは旧知らしく，文学の話をしておられたのを羨望の気持ちで眺めていました。この一夜で一段と立派な研究者だという感を深くしてその学会の日程を終えました。今もこのひとときをなつかしく思っています。

そんなご縁もあってか，しばらくしてまだ専任の職のない私に赤瀬先生が「桃山学院大学へ非常勤講師に来ないか」と声をかけて下さり私は大喜びで承諾しました。比較文学の講義を赤瀬先生と分担したり英語科目を担当したりしました。今と違って学生はほとんど男子であり，先生もほとんど男の人でした。その時専任で桃山学院大学へ就職できるという幸運が訪れようとは

夢にも思いませんでしたが，何年か後英語教員が募集されることになり応募しましたところ，非常勤で講義をしたことも好意的に考えて下さったらしく，私は本学の専任教員になることが出来ました。すべて赤瀬先生のおかげです。心から感謝しています。

あれ以来驚くような早さで時が流れ，新進気鋭の学者であられた赤瀬先生も定年を迎えられることになりました。ますますお元気で充実したご研究を続けられることをお祈り申しあげます。